

リアルタイム現地情報

銚田地域トマト情報交換会を開催しました

12月15日に銚田地域全体で効果的に病虫害の発生を抑制するため、普及センター主催で、JA茨城旭村・JAほこたのトマト担当者が一堂に会し、トマト黄化葉巻病の発生状況や各JAの試作品種等の情報を共有する情報交換会を開催しました。

銚田地域は県内最大のトマト産地で、主力のミニトマトの他、中玉、大玉も作付けされています。また、トマト、ミニトマトは県の青果物銘柄産地等にも指定されており、高く評価されています。

管内のトマト栽培では、近年、タバココナジラミが媒介する黄化葉巻病による減収が問題となっており、園芸研究所と民間企業が共同で開発した簡易検出キットを用いた罹病株の早期発見・抜き取りや、農薬のローテーション散布、栽培終了後の蒸し込み処理の推進等の対策を行ってきました。

また、各JAの部会内に組織されているトマト研究会や研究部が、黄化葉巻病対策として耐病性品種の試作・検討を行い、昨年度から耐病性品種の導入が開始されました。その結果、多発生地域を中心に耐病性品種の導入が進み、耐病性品種を作付けした農家では発生が抑えられています。

普及センターでは、本情報交換会を銚田地域全体で効果的に病虫害の発生を抑制する契機とし、今後も関係機関と連携しながら、トマトの安定生産による所得向上を支援していきます。



銚田地域農業改良普及センター